

**平成28年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 実施段階**

学校経営方針	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として、共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。このため、教育目標や教育方針に基づき、数理科学科・普通科・芸術系が、それぞれの特色や持ち味を生かしながら、切磋琢磨し、学校の活性化を図ります。</p> <p>特に、次の3点を学校経営の基本方針とします。</p> <p>(1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化                  (2) 社会的自立を図るために必要な能力の育成                  (3) 地域・保護者に信頼される学校づくり</p>	<p>昨年度の成果(○)と課題(△)</p> <p>△○国立50人プロジェクト                  国立大合格は31人に留るも私大合格は健闘、進路達成の満足度は良好                  学力分析、地方大学調査等、土台の充実進む</p> <p>○確かな学力育成                  家庭学習定着が向上、個人レベルで積極的な授業改善</p> <p>○特別活動、部活動の充実、生徒の自主性の成長                  活発な生徒会活動、高い部活動加入率</p> <p>○「社会に通じる人」の育成                  挨拶・身だしなみ・時間厳守の姿勢などでより向上                  Can-Doリストの積極的活用で課題を残す</p> <p>○数理科学科・普通科美術工芸専攻における特色ある取組                  スーパーサイエンスネットワーク、高大連携、地域連携等が充実</p> <p>△普通科における特色ある取組                  普通科における高大連携等のさらなる充実が課題</p> <p>△広報活動                  学校HPや、学校説明会・学校訪問等の広報活動の充実が課題</p>	<p>(1)生徒が主体的に学び学習意欲を高めることができるよう、組織的に授業の改善を行う。</p> <p>(2)Can-Doリストを積極的に活用して、生徒が「社会に通じる人」に成長するサポートを行う。</p> <p>(3)部活動、特別活動などを通じ、学校生活に主体的に参加する姿勢をさらに育成し、自主性を涵養する。</p> <p>(4)1年次からキャリア教育を充実させ、キャリア形成の視点から将来を見据えた進路意識を涵養する。</p> <p>(5)将来を見据えた進路意識を礎とし、生徒が志をもって自主的に進路選択をし、それが実現するよう、組織的・系統的な進路指導を行う。</p> <p>(6)広く丁寧な広報を行って本校の教育内容を周知し、本校教育活動への理解・支援につなげる。</p> <p>(7)規範意識の向上と社会性の確立を図る。</p> <p>(8)人権尊重の視点を持ってあらゆる教育活動に取り組む。特に、本年度施行される 障害者差別解消法の趣旨に則った教育活動の基準を確立する。</p> <p>(9)身近なところから教育環境の整備を図り、生徒の勉学への意欲向上につなげる。</p> <p>(10)国際社会で活躍する人材の育成を目指し、その基礎となる力を育成する。</p>

評価
A 十分達成できている(目標以上の成果が得られた)
B ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた)
C 達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない)
D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	魅力ある学校づくりの取組	学校改革会議(仮称亀岡ルネサンス会議)を推進役とした学校改革の推進	C	会議を立ち上げ、Can-Doリストのブラッシュアップなどで成果を上げた。環境改善についても一定の問題提起まで行ったが、実践には至らなかった。
		普通科における高大連携の推進	B	講演会の実施や体験授業など、幅広く連携することができた。
		普通科美術・工芸専攻の充実	B	大学との連携や小学校への出前授業など積極的に実施できた。また、美工展の開催や各種展覧会への出品など作品制作面においても活発に活動した。
		数理科学科における探究的学習の深化	A	数理科学科の学年を越えたつながりを大切にしている取組を持つことができた。地域行事への参加も積極的に行った。研究発表会の実施すど、探究的学習を実施している成果が進路実績として現れた。
		広く丁寧な広報活動の充実	A	中学校に亀岡高校の魅力を発信することができ、普通科においては志願者増につながった。
		卒業生、PTA、地域の方などの協力を得た取組の充実	B	卒業生を招いての講演会開催や地域行事へ参加した。行事へのPTAの積極的な協力があり、より充実させることができた。
教育課程・学習指導	確かな学力を育てる教育	改訂2年目を迎える教育課程の検証	C	教職員研修を実施し意識付けを行ったが、具体的な取組ができなかった。
		学習意欲を高めるための組織的な授業改善	B	生徒対象に授業アンケートを実施し教員にフィードバックした。主体的・対話的で深い学びについての教員の意識に差がある。
		家庭学習等主体的な学びを促す指導の充実	B	学習時間調査を実施するなど、家庭学習の充実を図ったが、さらに充実させられる部分があったと思われる。
		読書活動の推進(図書館活用の促進)	C	教科と連携した授業等での利用促進を図った。出張図書館の実施や図書館だよりの発行などを行ったが、貸出数が伸びなかった学年があった。
進路指導・キャリア教育	将来を見据え、志をもって進路にチャレンジする生徒の育成	1年次からのキャリア教育の充実	B	卒業生の協力を得るなど、進路指導部と学年団が連携し、進路ホームルームを充実させた。
		Can-Doリストのブラッシュアップと積極的な活用	B	Can-Doリストを改良し、新項目を設定し活用したが、生徒の身近なものとして定着させるまでには至らなかった。
		組織的・計画的な進路指導の充実	B	3年間を見通したキャリア教育を進路指導部で企画したが、時間数の確保が課題である。
		選挙権年齢の18歳以上への引き下げに対応した主権者教育の充実	B	生徒会選挙を活用した模擬投票や、担任による講義、授業でディベートの実施などを行った。より広く生徒の意識を高揚させる必要がある。
	豊かな人間性をはぐくむ教育	基本的生活習慣の確立	B	朝の遅刻は一日平均1人台と大幅に減少した。遅刻指導時間後に登校する生徒の把握・指導が課題である。身だしなみの面はしっかりできている。
		規範意識の基盤としての倫理観の醸成	B	自主性や主体性を高める取組を行っているが、目に見える効果として現れるまでには更なる努力が必要である。
		特別活動・部活動のさらなる活性化による自主性の育成	B	部活動の入部率は85%を超えており高い割合である。今後は部活動を3年間継続できる生徒を増やしたい。また、生徒が主体的に学校行事の運営に取り組む中で、何事にも前向きな集団へと成長させたい。
		情報モラルに関する指導の充実	C	折に触れて指導しているが、継続的な指導が必要である。
		いじめを許さない学校作り	B	「いじめ0」を目指して、いじめアンケート等により状況把握に努めた。学校独自の啓発活動をより充実させていきたい。
		教育的配慮を必要とする生徒への対応の充実	B	スクールカウンセラーや地域支援コーディネータと連携し、生徒対応を行った。今後も合理的配慮が提供できるよう努める。
生徒指導・人権教育	安心・安全・健康的な環境	健康・安全意識の向上	B	校内の危険個所の見直しや緊急連絡体制の確認などを行い、安全安心に対する教職員の意識を高めるようにした。本年度も交通事故の報告が数件あり、ルール・マナーの徹底をさらに呼びかけたい。
		美化意識の向上と清掃の徹底	B	生徒・教職員の有志によるクリーンキャンペーンを2回実施し、学校周辺および地元地域の清掃を行った。また、始業前の時間に、校内外の清掃ボランティア活動を自主的に行う部活動もあり、地域の方からも評価いただいている。
		学校生活に潤いを与え学習へのモチベーションを高める環境作り	B	学習環境の整備に向けてさらに研修を進める。進路指導部では生徒用閲覧コーナーの充実や学習合宿などで教員が活用する資料も整備した。
	グローバル人材の育成	異文化交流、異文化理解の推進	B	幅広い情報提供を行う中で生徒の意識は変わって来ていると思われるが、日常的にグローバル人材を育成するような制度や取組を行うように努めたい。
		海外留学へのチャレンジの支援	B	海外留学などへ毎年参加者が出るなど、学校の取組の1つとして定着した感がある。数理科学科では海外研修(グアム研修)に向けた英語でのプレゼンテーションでの成功を生かして、「アジアサイエンスネットワークINシンガポール」にも生徒を派遣することができた。

研究指定等 府立高校特色化事業(サイエンスネットワーク京都)

学校関係者評価委員会による評価  
 ・挨拶や身だしなみ等、しっかりできている。遅刻数の減少も落ち着いて学校生活を送っている表れであろう。  
 ・学習面でも、探究的学習に力を入れるなど、頑張っている成果が出ていると感じる。  
 ・平成30年度入学生から導入される新学力テストへの対応について、具体的に示す必要がある。  
 ・地域との連携を充実させることは大切であるが、生徒に負担が行かないよう配慮することも必要である。

次年度に向けた改善の方向性  
 ・中教審答申(学習指導要領改善)や高大接続改革の方向性に沿って、探究的学習の充実など教育内容の見直しを図る。  
 ・安心・安全の意識を高め、教育環境の整備を進める。  
 ・キャリア教育のいっそうの充実と、さらに組織的・系統的な進路指導体制を構築する。  
 ・数理科学科、普通科美術工芸専攻の教育内容を中心に、広報活動のさらなる充実を図る。